

夢の実現に向けて

=野口英世に憧れて来日した韓国人留学生=

金美貞さんの初めての来日は、8年前のことです。当時、韓国の大学生であった彼女は野口英世の伝記を読んだのがきっかけで大学3年生の時に交換留学生として、大阪国際大学に留学してきました。それまで日本語が出来なかった彼女は、そこで日本語を学び、交友を深めました。再び日本にやってきたのは筑波大学で、それから5年が経ちました。

筑波大学の良いところは？の問い掛けに、真っ先に、「勉強に集中できる環境が良いところ」と答えてくれた金さんは、筑波大学で今秋に開催される「日中韓大学院生フォーラム」の事務局で開催に向けて活躍しています。

その金さんがこの度、私費留学生を助成支援する「財団法人ロッテ国際奨学財団」から、奨学金を授与されました。いわゆる「リケジョ」の代表のような金美貞さんと思っていたら、高校生向けの雑誌「リケジョ」にも掲載された本物のリケジョでした。

その金さんに、日中韓大学院生フォーラム開催に向けての意気込みとご自分の夢について、お話を伺いましたので、ご紹介いたします。

◎筑波大学に留学しようと思ったきっかけは？

8年前に交換留学で大阪に来たのが初めての来日です。日本語が全く出来なかったので、ここでは日本語の勉強をしました。

筑波大学に進学したのは、母国の大学の先生から、「研究するのなら、筑波大学に」と勧められたからです。

◎元々理系に興味があったのですか？

韓国の大学では分子食品生命工学というのを専攻していました。ただ、韓国の大学では専門分野の勉強をするのは3年生になってからです。私はその時、日本に留学してきたので実験などは母国ではほとんどしていませんでした。

だから、本格的に研究を始められたのは、筑波大学に来てからです。

◎理系の研究は、欧米の方が活発では？

そうですね。最初は、アメリカか、日本かで迷いました。

そもそも、日本に来ようと思ったきっかけは、母国で野口英世の伝記を読んだからです。ちょうど最初の来日の年に野口英世の新札が発行されて、ものすごく運命的なものを強く感じました。





◎ここでの研究生生活を経て、今後どのように活躍されますか？

私の夢は、ノーベル賞を取ることです。

とても大きな夢で、いつも冗談半分に言っていますけれど。この夢を実現するために、短期の目標と長期の目標をもって目指すように心掛けています。

まず、今年は論文を3本書こうと思っています。今持っているものと合わせると、来年3月までに5本の論文を発表することを目標にしています。

それから、私は結婚しておりまして、夫もここ、筑波大学博士課程2年の学生です。私の方が1年早く卒業してしまいますので、夫の研究のサポートをしていきたいと思っています。それと同時に、研究機関での研究もしてみたいと思っています。JSPS外国人特別研究員という制度があるのですが、それに申請してみたいと思っています。



◎リケジョの代表みたいですね。リケジョという言葉をご存知ですか？

知っています。実は、高校生向けの雑誌「リケジョ」にインタビュー記事が載ったことがあります。(下記、掲載誌)

偶然にも、私のページの前にノーベル賞に関する記事が掲載されていて、初来日した際の「野口英世」の新札発行のように、「運命だ！」って、勝手に思いこんでいました。



◎これから、筑波大学に留学してこられる人に向けてアドバイスを。

筑波大学に留学してくる学生は、皆、勉強するのに環境が良いというイメージで来日してきます。

実際に、その通りだと思います。しかも、大学学内に限らず、つくば市全体が非常にグローバル化が進んでいますので英語さえ出来れば大概問題はありません。

でも、もっと楽しく、もっと充実した留学生活を送りたいと思うのであれば、ぜひ日本語を勉強してください。

分野にもよりますが、生命環境系では課外活動が活発です。それらを通して、積極的に日本の中に入って、専門分野だけの研究だけでなく、様々な活動にチャレンジしてみてください。

もちろん、日本語の勉強にもなります。

**The 5th Japan-China-Korea
Graduate Student Forum**
第5回日中韓大学院生フォーラム

Recruitment of Participation

Deadline for the Application: 2012. 5/30 (Wed.) PM 17:00

- ↓ **Welcome to the Forum: 2012. 9/21 (Fri.) ~ 24 (Mon.)**
- ↓ **Venue: University of Tsukuba**
- ↓ **Sessions: Oral and Poster Presentations**
- ↓ **Target: Only the Graduate Students majoring in "Life, Environment, and Resources"**
- ↓ **Common Language: English**
- ↓ **Attention:** Participants are obligated to attend the Cosmos-Café for English Skills training
- ↓ **Application : Prospective participants should submit their applications by May 30, PM 17:00**
- ↓ **Contact Us: For questions or application form, please contact, Forum Office, Ms. Mijung KIM**
E-mail: jckgradforum2012@agbi.tsukuba.ac.jp
- ↓ **Benefits**
One credit of Graduate General Education Courses program will be given to the applicants, taking the 01ZZ412 course!



◎日中韓大学院生フォーラムの事務局では熱心に活動をされていますね。

今年は博士課程3年生なので、当初は研究と両立するのは困難かなと思っていました。

しかし、私の所属する生命産業科学専攻長でも

ある杉浦則夫教授がこの日中韓大学院生フォーラムの委員長を務めておられ、日頃から沢山のご支援とご指導をいただいています。また、この日中韓大学院生フォーラムの総責任者である白岩善博教授、日中韓大学院生フォーラムの副委員長および私の指導教員である張振亜教授と大学事務の方々も支援してくださるので心強いです。

今回の大学院生フォーラムは、学生、教員を含めても200人を超える、かつてない程の大規模なものです。しかも、日本国内の大学はもとより、中国、韓国の大学だけでなく、近隣アジアの国々、ヨーロッパの大学からも参加者がいる、筑波大学のグローバル性をまさに象徴するフォーラムとなります。

確かにこのような大きなプロジェクトを担うのは、大変だな、と思う時はあります。でも、このようにいろいろな方々が私をサポートしてください。そうした方々の期待に応えるためにも、今回の日中韓大学院生フォーラムは絶対に成功させたいと思っています。

インタビューの最後に好きな言葉は？とお伺いしたら、「今辛くとも、明日には過去になる」と教えてくれた金さん。その言葉に、決して楽なことばかりではなかったのであろうことが察せられます。

しかし、「夢は大きいほど良いとも言いますから」と凛とした表情で自分の志をお話して下さった金さん。夢を目標に変えて、着実に実現しようとする言葉に、金美貞さんが、「韓国を代表する女性科学者」になる日はそう遠くないと感じました。

(インタビューー 藤枝八千代)

最後に金さんからのメッセージです。

金 美貞(キム・ミジョン)

筑波大学大学院・生命環境科学研究科・生命産業科学専攻
博士後期課程3年



私は韓国からの私費留学生です。この度、アジアからの私費留学生を支援する「公益財団法人ロッテ財団」の奨学生に選ばれました。

現在、筑波大学大学院・生命環境科学研究科・生命産業科学専攻の3年生に在籍し、博士号を取得するため、廃棄物バイオマスを利用した水素やメタンなどのバイオエネルギーの変換効率に関する研究に従事しており、博士後期課程の最後の年次を迎え、忙しい日々をすごしております。そのような中で奨学金をいただけることは、さらに勉強や研究に専念し、自分の目標に向かって努力できることを意味します。

そこで、これから卒業するまでの約6ヶ月間の短期目標を立てました。

まずは来年3月に博士号を取得することです。8月からは博士号を取得するためにもっとも重要である博士論文を執筆に取り組みます。

研究テーマにおける実験を行い、その研究成果を論文にまとめ、国際学術誌に3本以上、投稿することを目標にしています。さらに、国内学会だけではなく、国際学会に参加し、自分の研究成果を発表することです。そのため、今年11月にアメリカで開催されるバイオエネルギー関連の国際学会で発表するにあたり、発表の準備を現在、行なっているところです。この学会に参加することにより、他国との科学的な観点による研究レベルの交流、国際的センスおよびスキルを身に付けることができると期待しています。

最後に、ロッテ財団が奨学生のために行なう様々な活動に積極的に参加します。その活動に参加することにより、国際社会への貢献に対する日本の民間企業の揺るぎない積極的な姿勢を、改めて感じ、また、アジアの他国からの他大学の奨学生と交流することにより、博士後期過程の修了後、国際活動への自信とグローバル・マインドを持つ研究者になりたいと望んでおります。